

○副議長（村上久仁君） 三十一番八島利美君。

〔三十一番 八島利美君登壇〕

○三十一番（八島利美君） 自由民主党・県民会議の八島利美でございます。議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして、大綱五点について一般質問させていただきます。

質問の前に、本日午前七時三十分頃岩手県沖を震源とするマグニチュード六・九と推定される地震があり、青森県で最大震度六強を観測し、県内では登米市で震度五弱が観測されました。また、台風七号と台風八号のダブル台風が発生し九州地方等で大雨による被害が発生しております。被害に遭われた皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げます。なお、今後も被害が予想されますので災害に対する警戒を強めていかなければならないと思います。

それでは質問に入らせていただきます。

大綱一点目、防災・減災、国土強靱化の推進についてです。以下五点について伺います。

一点目、尾袋川・小田川流域の流域治水の推進についてです。

県は特定都市河川推進被害対策法に基づき、令和六年三月二十二日に、阿武隈川水系尾袋川、小田川等の計四河川を特定都市河川に指定しました。当初の予定では、令和六年度中に計画策定・公表を予定していたはずですが、計画が公表されていないため検討経過と今後の整備計画についてただしたところ、令和七年六月議会での答弁は、「計画策定に当たっては河川事業はもとより流域内に国や角田市が整備する排水機場の機能強化や、道路かさ上げによる氾濫防止施設などの対策について、浸水シミュレーションによりその効果を確認し計画に位置づける必要があることから関係機関との協議調整に時間を要している。計画の柱の一つとなる尾袋川や小田川の河川整備については、令和三年に策定した新・災害に強い川づくり緊急対策事業アクションプラン等に基づき、国土強靱化予算など最大限活用しながら計画的に進めている。引き続き国や角田市と緊密に連携しながら早期に流域水害対策計画を策定し、国土強靱化実施中期計画の予算活用も検討しながら、ハード、ソフト一体となった流域治水の実現に向け鋭意取り組んでまいります」という答弁でしたが、あれから一年たちましたがいまだに計画が公表されて

おりません。このままではますます事業の遅延が懸念されますが、これまでの検討経過並びに今後の整備計画について、改めて伺います。

二点目、小田川河川改修事業の推進についてです。

小田川については令和元年東日本台風の際に甚大な被害が生じております。阿武隈川合流点から阿武隈急行線までの区間の築堤整備の早期完成のほか、現況断面での流下能力が三十%以下となっている阿武隈急行線から地藏堂橋までの区間について、早期着手をし、河道拡幅と築堤整備が必要ですが現在の進捗状況と今後の整備計画について伺います。

三点目、雫子尾川河川改修事業の促進についてです。

雫子尾川は令和元年東日本台風により甚大な被害を受けましたが、発災以来今年度まで災害復旧工事や大規模特定河川事業による築堤・河道掘削等の工事が進められ大変感謝をしておりますが、近年の豪雨の状況を考えると残事業の早期完成が望まれます。現在の進捗状況と今後の事業計画及び三代河原橋から上流部の事業化の予定について伺います。

四点目、国営施設応急対策事業角田地区の整備促進についてです。

江尻排水機場は令和元年東日本台風で、農業、土木、商工の被害総額が百億円を上回るなど未曾有の大災害が発生したことから、機能強化等大水害に耐え得る施設整備の改修が急務となっており現在も改修工事が進められております。早期の整備完了が望まれますが、現在の進捗状況と今後の整備予定について伺います。

五点目、国営土地改良事業地区調査角田丸森地区の事業促進についてです。

昨年六月議会で、「国では昨年度から国営総合農地防災事業角田丸森地区の地区調査を実施し、現在、堀切排水機場の機能強化や小田排水機場の新設など一体的な整備について検討を進めております。今後の整備計画については、令和九年度から工事計画に係る全体実施設計が行われ令和十二年度の事業着工に向け取り組んでいく」と伺っております。県としても、引き続き地元関係機関と連携しながら、適切な事業計画の策定と早期の着工の実現に向けて国に働きかけてまいりますとの答弁でした。早期の事業着手が望まれますが現在の進捗状況と今後の整備計画について伺います。

次に、大綱二点目、県南地区の道路整備促進についてです。

以下四点について伺います。

一点目、白石、角田、山元間広域幹線道路の整備促進についてです。

白石、角田、山元間の常磐自動車道から東北縦貫自動車道へ接続する広域的高速サービスを提供する広域道路の整備は、沿線市町の振興発展と沿線住民の安全・安心の確保、そして新たな物流や企業活動等様々な面での活性化が図られ、その効果は極めて大きいので地域高規格道路として早急に整備促進を要望しておりますが、令和六年六月議会では高規格道路への位置づけについては、「角田市をはじめとする沿線市町の総合計画や、土地利用計画等を含めたマスタープランなどを考慮し、現在、国で行われている高規格道路ネットワークの在り方に関する議論等を注視しながら判断してまいります」との答弁でした。角田市では令和六年三月に策定した角田市都市計画マスタープランにおいて広域幹線道路網の整備・充実を交通体系の基本方針にうたっており、整備促進を強く要望しております。早急に幹線道路の整備を図る必要があると思いますが、改めて所見を伺います。

二点目、国道三百四十九号道路整備の促進についてです。

令和元年東日本台風では江尻字谷津前地区内において甚大な住宅の浸水被害が発生したためこの区間の道路のかさ上げを要望しておりましたが、昨年の六月議会の答弁では、「県では河川堤防と一体となった道路整備に向けて、今後策定する流域水害対策計画に位置づけるため、道路かさ上げ等の具体的な整備内容やスケジュールについて国と調整を行ってきたところです。今年三月に策定した宮城県土木・建築行政推進計画中期アクションプランにおいて、当該事業を位置づけたところであり、早期の事業化に向けて引き続き国や角田市と連携しながら鋭意取り組んでまいります」との答弁でした。その後の進捗状況と今後の整備計画について伺います。

三点目、主要地方道丸森柴田線の整備促進についてです。

角田市の島田地区の角田大口線との交差点から丸森町との境までの約八百メートル区間は、幅員も狭く道路縦断も波打っている状況で、低い箇所では冠水が度々発生し通行に支障をきたすため何度も早急な整備を要望しておりましたが、昨年度具体的なルートや構造などを検討する概略設計をしたと聞いております。現在の進捗状況と今後の整備計画について伺います。

四点目、主要地方道白石丸森線の整備促進についてです。

本路線は丸森町大張地区から角田市の小田地区を経由して丸森町舘矢間地区までの約四・九キロメートル区間について改良工事を進めておりますが、おかげさまで丸森町大張地区側は県道並びに町道との接続道路も完成し、今月十四日には完成祝賀会が地元集会所で盛大に行われ地元住民の皆様は大変喜んでおられました。工事関係者の皆様に感謝申し上げます。また、角田市小田地区側は道路も狭く歪曲しているため非常に危険な状況で早急に改善が必要だと要望してりましたが、一部区間で用地測量が完了し用地買収も始まると聞いております。現在の進捗状況と今後の整備計画について伺います。次に、大綱三点目、持続可能な観光振興についてです。

一点目、ポケモン天文台を活用した観光振興についてです。

人気ゲームポケットモンスターのキャラクターを通して宇宙について学ぶポケモン天文台が、角田市のかくだ田園ホールで七月五日から九月十五日まで開催されます。この間の来場者数は、過去の企画展来場者実績より一日当たり五百名から千名を見込んでおり、県内はもちろんのこと県外や国外からも大勢のポケモンファンが来訪すると思われます。この絶好の機会に宮城県魅力をPRし、リピーターとなつていただくための様々な仕掛けをするべきだと思いますが、イベントの現在の進捗状況と宮城県の魅力発信の取組について伺います。

二点目、広域観光拠点としての、かわまち交流センター（水防センター）の活用についてです。

丸森町では、丸森地区MIZBステーション（河川防災ステーション）内に災害時には応急復旧の拠点としての機能を担うかわまち交流センターを整備しており、平常時には令和元年東日本台風災害の伝承や災害に対する防災教育、観光案内、飲食・物販スペース、阿武隈ライン舟下り、サイクリング、そして今年の秋開設予定の宮城オルレ丸森コースなどの拠点として整備する予定で、復旧・復興のシンボルとなるにぎわいの拠点として利活用できる施設を目指しており、令和九年の春に利用開始の予定です。県としても、道の駅や宮城オルレ等、近隣市町と連携をして広域観光の拠点として利活用すべきと思いますが、所見を伺います。

三点目、国内観光活性化フォーラムinみやぎを活用した観光振興についてです。

第二十一回国内観光活性化フォーラム in みやぎが令和九年二月四日に仙台サンプラザホールで開催されます。宮城県内全域への観光客の誘致拡大と全国約五千四百社のANTA会員の旅行会社に対して、宮城県の魅力ある最新のコンテンツを大手旅行会社も含めた旅行会社へ販売促進を目的とした日本最大級の観光イベントの開催になります。この絶好の機会を生かすべきだと思いますが、現在、開催に向けてブース出展・広告協賛について県内各市町村並びに観光関連施設へ広く募集をしておりますが、六月十二日現在で参画自治体は宮城県のほか五市六町にとどまっております。宿泊税交付金などを活用して県内全市町村に参画してもらうよう県からも働きかけてはいかがでしょうか。また、県内の事業者の皆さんは全国的に見てもまだまだ旅行会社との取引登録件数が少ないので、入会金、年会費無料のANTA会員になっていただき、大会開催日には参加者全員に直接販売できる体制を構築して、経済活動を促進するべきだと思いますが今後の取組について所見を伺います。

四点目、仙台・宮城デステイネーションキャンペーン（DC）を活用した観光振興についてです。

令和十年度秋、十月から十二月のDC開催地域が宮城県に決定いたしました。DCとは、地方自治体と観光事業者等がJRグループと協働で全国から誘客を図る国内最大の観光キャンペーンですが、単なる集客イベントではなく地域観光の将来に向けた取組のきっかけ、かつスタートと位置づけ、観光素材やおもてなしの掘り起こし、人材・ネットワークの育成を通じて一過性に終わらない持続可能な観光の推進につなげるということです。ですが、事業の概要と今後の取組予定について伺います。

また、これを機会に新たなインパクトのある観光コンテンツを作成するために、観光のプロが参画し機動力のある（仮称）観光戦略委員会を設置する考えはないか、併せて伺います。

五点目、宮城県観光連盟DMOを活用した観光振興についてです。

これからの観光を発展させるために強く認識しておくことが、観光地を経営するという発想です。経営とは、平たく言えば自社の資産・ヒト・モノ・カネを使って売上げを上げ、利益をステークホルダーに還元または再投資することです。この発想を持って観光地を運営するということです。観光庁の資料にもそこかしこに観光地を経営すると

いう発想が大事であると記載されています。なぜそのようなことが必要なのでしょうか。それは日本そして世界において観光を取り巻く市場が激変したからです。日本において右肩上がりで集客も売上げもできた時代は終わりました。もはや地方においては人口も減り、新しく物を建てる力も失っていく時代です。これは経営という視点で見れば、マーケットが縮小する、自社の資産であるヒト・モノ・カネが全て減少していくのが通常モードになるということです。経営とはまず現状の認識を冷静に受け止めることから始めるので、自社を取り巻く状況を冷静に把握することが大事です。自社の資産、観光資源、観光人材、観光財源を把握し、これらを的確に最も効果が出るよう配分するということが観光地経営の本質です。この観光地の経営で注目されるのがDMOです。DMOとは、デステイネーション、マーケティング&マネジメント、オーガニゼーションの頭文字を取っており、その名のとおり観光地をマーケティングやマネジメントする組織ということです。観光地のヒト・モノ・カネを駆使し、その観光地に観光客を呼び込み地域経済を活性化させて、地域住民の生活の質の向上をさせる役割をする組織です。行政機関ではなく独立した観光地域づくり法人と定義されるように、明確な独立した法人です。このことの何が大事かというと、DMOは観光地経営のプロが運営しないといけないということです。行政は観光以外の多岐にわたる業務を遂行しており観光経営のプロではありません。民間が中心となったDMOが行政と協力して観光地を経営するというのが正しい姿なのです。したがって、DMOを正しく機能させる上で大事な点は、DMOを独立した機関として存続させ、そこに観光地経営のプロ人材を投入し観光地の売上げと利益を最大化させ、地域住民の生活の質の向上をさせることです。そこで提案ですが、昨年の国のDMO制度の構造転換の今、宿泊税を活用してしっかりとDMOの財源を確保し、信頼と財源のある宮城県観光連盟と知恵と行動力のある観光地経営プロの民間DMOとが融合連携し、最強の官民連携型DMOを構築することでより高度な成果を上げることができると考えますが、DMOの体制強化について所見を伺います。

次に、大綱四点目、ゼブラ企業の創出・育成の推進についてです。

ゼブラ企業とは、二〇一七年に四人のアメリカの女性社会起業家が提唱した概念です。時価総額を重視するユニコーン企業と対比させて、社会課題解決と経済成長の両立を目指す企業を、白黒模様、群れで行動するゼブラ（シマウマ）に例えて命名されまし

た。ゼブラ企業の特徴は、社会貢献（事業の成長を通じ社会に貢献すること）、持続可能性（短期的な利益ではなく長期的な視点で持続可能な成長を目指すこと）、相利共生（他社や地域社会との協力を重視しウィン・ウィンの関係を築くこと）が挙げられます。このゼブラ企業については二〇二三年六月に公表されたいわゆる骨太の方針（経済財政運営と改革の基本方針二〇二三）や、新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画において、地域の社会課題解決の担い手となりインパクト投資等と呼び込む中小企業として創出と投資促進に取り組むことや、課題先進国と言われる我が国において、社会的課題を解決していく仕組みを経済社会の中にビルトインしていくといった方針が示されたほか、翌二〇二四年六月に公表された骨太の方針等においても、支援手法や社会的インパクトの評価手法等の確立に取り組むことが明記されるなど、地域経済の新しい担い手としてその存在に注目が集まっています。しかし、地域においてゼブラ企業が誕生し成長に至るまでには様々な課題があると考えられます。また、経済性と社会性の両方を追求するビジネスモデルを構築するためには高度なビジネススキルが必要です。また、事業を進めるに当たって多くのステークホルダーが関わるケースが多いため、解決したい地域課題や事業を通じて社会に創出したい効果（社会的インパクト）を可視化し、関係者の連携を強化する取組も必要となつてきます。更に、このようなゼブラ企業等の課題を踏まえた支援が受けられる環境を整えていくことも重要です。二〇二四年三月には中小企業庁より多様な関係者による支援や、協業によって取り組む地域課題解決事業を進める上での要点を整理した、地域課題解決事業推進に向けた基本方針が公表されております。また、山梨県では、やまなしインパクトチャレンジと称して地域のゼブラ企業を育成するため事業設計や伴走支援、初期事業費補助を実施していますし、社会起業家を支援する人材も育て、県内にローカル・ゼブラを輩出するエコシステムの構築を目指しています。宮城県でも、ビジネスを通じて社会課題解決を目指すゼブラ企業の創出・育成に向けて積極的な支援が必要だと思いますが、所見を伺います。

次に、大綱五項目、若年層の献血推進についてです。宮城県の献血の推移を見ると毎年度約九万人の献血者を目標としていますが、直近八年間の達成率が九九・〇%から一〇三・一%と、おおむね目標を達成し医療機関に安定して血液製剤を供給できています。一方で、宮城県の年代別献血者数は四十代と五十代が多く、少子高齢化等による十

代から三十代の若年層献血者数の減少という課題を抱えています。将来にわたり安定的に医療機関へ血液製剤を供給するため若年層に向けた取組が求められます。その対策として、赤十字血液センター、県薬務課、県教育庁、保健体育課の三者が協力して、共助の精神を育むこと、若年層への献血の普及啓発を目的に、県立高校において献血バスによる献血、献血バスの見学、献血セミナーのいずれかを選択制で実施していると聞いています。宮城県赤十字血液センター所長の鈴木聡先生も、宮城県で高校時代を送る子供たちは公立・私立の区別なく、献血を通じて共助の心を培い、将来どこで暮らそうとも優しい社会の担い手に育ってほしいと思いますと希望していますが、高校での献血活動のこれまでの実績と今後の予定及び今の県立高校への取組を、公立・私立を越えて県下あらゆる教育機関に広げて若年層の献血推進を図るべきだと思いますが、知事並びに教育長の所見を伺います。

以上、大綱五点について質問し、壇上からの質問を終わります。御清聴ありがとうございます。ありがとうございました。

○副議長（村上久仁君） 知事村井嘉浩君。

〔知事 村井嘉浩君登壇〕

○知事（村井嘉浩君） 八島利美議員の一般質問にお答えいたします。大綱五点ございました。

まず、大綱三点目、持続可能な観光振興についての御質問にお答えいたします。

初めに、ポケモン天文台を活用した観光振興についてのお尋ねにお答えいたします。ポケモン天文台は、様々なポケモンの生態と宇宙の不思議を重ね合わせながら、天文学や宇宙科学を楽しく学べる大変人気のある巡回企画展であり、昨年の相模原会場では二か月間で約九万人が来場するなど多くの来場者が見込めることから、我が県の魅力を発信する好機になるものと期待をしております。現在、既に前売り券の販売を開始しており、新たな展示企画や特典などの準備を着々と進めているところであります。更に、角田市や阿武隈急行株式会社とも連携して、駅やその周辺でのパネル等による装飾や、キッチンカーの出店など、来訪者に喜んでいただける様々な取組を併せて行うこととしております。県といたしましては、県内外から多くの方々に訪れていただけるよう実行委員会において様々な媒体を活用しPRを行うとともに、ラプラス公園やポケモンマン

ホールポケふたの情報なども含めた県内の魅力ある観光地の紹介を行うことにより、県内周遊にもつながるよう取り組んでまいりたいと考えております。

次に、国内観光活性化フォーラムinみやぎについての御質問にお答えいたします。来年二月四日に全国旅行業協会の主催で開催されます国内観光活性化フォーラムinみやぎは、全国から約二千人の旅行業者や観光関係者が集まる大規模イベントであり、来年秋の仙台宮城デスティネーションキャンペーンのプレキャンペーン、令和十年秋の本キャンペーンを控え、我が県をアピールする絶好の機会と考えております。このため、先月開催した仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会の総会においても、市町村や観光関連事業者に対し、本フォーラムへの出展や同協会への入会について呼びかけたほか、改めて市町村に対して宿泊税市町村交付金の活用についても促したところであります。今後も、本イベントの成功に向けてフォーラムへの出展を働きかけるとともに、旅行者や観光関連事業者の会員が増えることで相互の商談機会創出にもつながるよう県観光連盟の会員などに対し新規入会についても呼びかけてまいりたいと考えております。

次に、仙台・宮城デスティネーションキャンペーンについての御質問にお答えいたします。

デスティネーションキャンペーンについては、平成二十年秋に我が県として初めて開催し、震災後の平成二十五年春に二回目を迎え、それから十五年ぶりとなる今回の令和十年秋のキャンペーンは、宿泊税も導入した中で更なる飛躍のきっかけにしたいと考えております。人口減少局面を迎える中、今回のキャンペーンを通じて交流人口の拡大と地域経済全体の活性化、持続可能な観光地域づくりを実現していかなければなりません。それらを踏まえ、今年度は仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会を母体として関係者が一体となった組織体制を作り上げるとともに、基本コンセプトや来年秋のプレキャンペーンに向けた取組などについて検討を進めていく予定です。具体的な検討に当たっては、協議会内に設置する事業委員会において、専門的な知見を有する人材の参画も得ながら多様なアイデアを事業に反映させてまいります。観光は地域の総合力であり、キャンペーンを一過性のものに終わらせず将来へつなぐことが重要であります。宿泊税も活用しながら、関係者とともに観光素材の磨き上げや受入れ環境整備を強力に推進めオール宮城で取り組んでまいります。

次に、大綱五点目、若年層の献血推進についての御質問にお答えいたします。

全国的に少子高齢化が進み献血可能な人口が減り続ける一方で、医療現場での血液需要は増加する見込みであることから、将来にわたって安定的に血液を確保するためには、若年層を対象とした献血の普及啓発が大変重要であると認識しております。県では、令和六年度から県教育委員会及び県赤十字血液センターと協力し、県立高校における献血推進の取組を進めているほか、公立・私立の区別なく県内の全ての高校に対して献血への理解促進を図るリーフレットを配布しており、昨年度は県立高校以外の十校にも献血の協力をいただいております。県といたしましては、今後も公立・私立の枠組みにとらわれず献血に触れる機会を積極的に設けることが必要であると考えており、引き続き関係機関の協力をいただながら若年層の献血推進を図ってまいりたいと考えております。私からは、以上でございます。

○副議長（村上久仁君） 経済商工観光部長末永仁一君。

〔経済商工観光部長 末永仁一君登壇〕

○経済商工観光部長（末永仁一君） 大綱三点目、持続可能な観光振興についての御質問のうち、かわまち交流センターの広域観光の拠点としての利活用についてのお尋ねにお答えいたします。

丸森町が来年春にオープンを予定するかわまち交流センターは、観光案内の機能を有しており、今年秋の開設に向け準備を進めている宮城オルレ丸森コース上に位置し、周辺の阿武隈ライン舟下りやサイクリングなどとともに、町が誇るアクティビティの拠点としての役割が期待されています。また、東日本台風災害の伝承施設としての役割から、山元町の中浜小学校や岩沼市の千年希望の丘交流センター等、近隣の伝承施設とも連携した伝承ロードとしての可能性も見込まれます。更には、近隣市町の道の駅かくたや、やまもと夢いちごの郷などの観光物産施設との相乗効果も期待されるところです。令和十年秋に予定する仙台・宮城デステイネーションキャンペーンにおいても、このかわまち交流センターが近隣施設と連携した誘客効果が見込まれることから、丸森町や周辺市町とも意思疎通を図りながら広域観光の拠点としての利活用を働きかけてまいりたいと考えております。

次に、宮城県観光連盟と民間DMOとの連携についての御質問にお答えいたします。

公益社団法人宮城県観光連盟は令和六年三月に都道府県DMOに登録され、県内DMOとの連携・協働に加え、DMOの存在しない地域にも積極的に関わる県内の観光地域づくりの司令塔としての役割を担うことになりました。そのため、観光連盟においては、県内外のDMO及び観光に知見を有する事業者等の多様な関係者をメンバーとした企画専門委員会を新たに設置し、県内における関係者の合意形成に取り組んできたところです。今年度は宿泊税事業がスタートし、これまで以上に施策効果を高める必要がありますとともに、令和十年秋に予定する仙台・宮城デステーションキャンペーンの成功に向け、地域の関係者が主体的に参画する体制の構築が不可欠であることから、地域で活躍するDMOや現場感覚に優れた民間事業者との連携はこれまで以上に重要になると考えております。今後、都道府県DMOとして観光振興施策を効果的に推進していくため、企画専門委員会を中心に議論を重ねていく予定でありますので、観光連盟の体制強化の一環として、この委員会への民間DMOなどの新たな参画についても検討してまいります。

次に、大綱四点目、ゼブラ企業の創出・育成の推進についての御質問にお答えいたします。

地域の課題解決とビジネスの両立を目的としたゼブラ企業の創出と育成に向けた支援は重要であることから、県では昨年度にビジネスプランコンテストMIYAGI ZEBRA LABを開催いたしました。十五組の中から三組が入賞し、入賞者に対しては創業に向けた課題解決のための伴走支援をしているところです。また、地域課題に取り組む起業家を対象に、みやぎ産業振興機構においてスタートアップ加速化支援事業に平成二十九年度から取り組み、二年間の補助金交付と五年間の専門家による伴走支援など手厚い支援を実施しており、今年度は二十四件が採択されました。これらの取組により、酪農施設を活用した障害者の働く場の創出、教育の地域間格差を解消するためのオンライン学習の管理アプリの開発、AIを活用したてんかん患者の薬剤選択支援サービスなどの事業が行われているところです。今後も市町村や金融機関等の関係機関で構成する市町村創業支援ネットワーク会議を通じて丁寧な意見交換を行いながら、地域課題の解決とビジネスの両立に取り組むゼブラ企業の創出と育成に取り組んでまいります。

私からは、以上でございます。

○副議長（村上久仁君） 農政部長菊池弘之君。

〔農政部長 菊池弘之君登壇〕

○農政部長（菊池弘之君） 大綱一点目、防災・減災、国土強靱化の推進についての御質問のうち、江尻排水機場についてのお尋ねにお答えいたします。

角田市の農地や市街地の排水を担う重要な施設である江尻排水機場については、老朽化による機能低下が見られたため、令和元年度から国営施設応急対策事業角田地区により機能保全対策及び耐震化対策が行われております。その進捗については、今年四月までに主要施設である排水ポンプ四台のうち三台の改修が完了しており、残る一台についても来年五月末までに完了し、その他関連施設を含めた全ての工事が計画どおり令和十年度までに完了する見込みと伺っております。県といたしましては、引き続き関係機関と連携しながら計画的に事業が推進されるよう国に働きかけてまいります。

次に、堀切排水機場や小田排水機場の一体的な整備についての御質問にお答えいたします。

近年、気候変動の影響により水災害のリスクが高まってきた中、堀切排水機場や小田排水機場などの一体的な整備が早期に図られることは重要であると認識しております。このため県では、角田市・丸森町国営土地改良事業推進協議会と連携し、国に対し事業の早期着工に向けた地区調査の促進を要望してまいりました。国営総合農地防災事業角田丸森地区については、令和十二年度の着工に向けて地区調査が実施されておりますが、現在策定が進められている流域水害対策計画との整合を図るため、地区調査を二年間延長する必要が生じたことから、着工が令和十四年度になる見込みと伺っております。県といたしましては、適切な事業計画の策定及び早期着工に向け引き続き関係機関とともに国に働きかけてまいります。

私からは、以上でございます。

○副議長（村上久仁君） 土木部長齋藤和城君。

〔土木部長 齋藤和城君登壇〕

○土木部長（齋藤和城君） 大綱一点目、防災・減災、国土強靱化の推進についての御質問のうち、尾袋川・小田川流域水害対策計画についてのお尋ねにお答えいたします。

近年、全国的に激甚化・頻発化している自然災害に対応するためには、あらゆる関

係者が協働し流域全体で被害を軽減させる流域治水の考え方の下、水災害対策を推進していくことが極めて重要であると認識しております。流域水害対策計画の策定に当たっては、昨年度、排水機場の機能強化や道路のかさ上げによる浸水被害軽減対策について、浸水シミュレーションによりその効果を確認していたところですが、尾袋川において今年一月に国から新たに堤防・水門の整備案が示されたことから、現在、更なる整備効果の検証や関係機関との協議・調整を実施しているところです。県といたしましては、早期に流域水害対策計画を策定した上で、国土強靱化予算等を最大限活用しながら尾袋川・小田川流域の浸水被害軽減に向けしっかりと取り組んでまいります。

次に、小田川河川改修事業の現状と今後の整備計画についての御質問にお答えいたします。

小田川については、阿武隈川合流点から地藏堂橋までの約三・八キロメートル区間を、阿武隈川圏域河川整備計画に位置づけ計画的に整備を進めてきたところです。このうち、阿武隈川合流点から阿武隈急行線までの約一・五キロメートル区間については、国土強靱化予算などを最大限活用しながら重点的に整備を進めており、今年度内に全ての工事が完了する予定です。また、阿武隈急行線から上流の地藏堂橋までの約二・三キロメートル区間については、抜本的な改修に向け、これまでに、現地測量や概略設計が完了し、現在、築堤護岸の詳細設計を実施しているほか、角田市の御意見を伺いながら橋梁等の統廃合の検討を進めているところです。県といたしましては、地域の皆様が安全に安心して暮らせるよう、引き続き角田市をはじめあらゆる関係者と連携しながら早期整備に向けてしっかりと取り組んでまいります。

次に、雫子尾川河川改修事業の現状と今後の事業計画などについての御質問にお答えいたします。

雫子尾川については、令和元年東日本台風により甚大な被害を受けたことから、中流部の石神橋から三代河原橋までの区間について令和二年度から国の補助事業である大規模特定河川事業を活用し整備を進めております。当該区間については来年度の完成を目指し、現在、築堤工事や河道掘削工事のほか排水樋管工事などを集中的に実施しているところです。また、三代河原橋上流部については中流部の整備完了後に切れ目なく事業に着手することとしており、引き続き丸森町と緊密に連携しながら鋭意取り組んでま

います。

次に、大綱二点目、県南地区の道路整備促進についての御質問のうち、白石・角田・山元間の広域幹線道路についてのお尋ねにお答えいたします。

白石・角田・山元間の広域幹線道路については、防災道路ネットワークの構築に加え、県南地域の東西連携軸として地域産業の持続的な発展や観光振興などに大きく寄与するものと認識しております。このため県では、令和三年六月に策定した宮城県新広域道路交通計画において、主要な幹線道路である国道百十三号や県道角田山元線などを一般広域道路に位置づけ現道の機能強化を最優先に取り組んできたところであり、昨年度までに、国道百十三号の蔵本道路改良工事や県道角田山元線角田橋の長寿命化対策工事等が完了したところです。本路線の高規格道路への位置づけについては、災害時におけるネットワークの確保、救急医療活動、社会経済活動など、広域的な視点で整理する必要があると考えており、県といたしましては、今後、沿線市町と連携しながら検討を進めるとともに、引き続き国の高規格道路ネットワークの在り方に関する議論などを注視しながら判断してまいります。

次に、角田市江尻地区における国道三百四十九号の道路かさ上げについての御質問にお答えいたします。

令和元年東日本台風では、阿武隈川本線の水位上昇に伴うバックウオーターにより、支川の尾袋川が越水し、家屋の浸水や、国道三百四十九号が長時間通行止めとなるなど、甚大な被害が発生しました。このため県では、国、角田市とともに国道三百四十九号のかさ上げによるバックウオーター対策に関する調整を進めてまいりましたが、今年一月に国から道路かさ上げと同等の治水効果がある対策として、新たに尾袋川合流点を上流に付け替え、水門による逆流防止対策を行うことにより、道路や家屋等への浸水を防ぐ案が示されたところです。県といたしましては、現在、当該案を流域水害対策計画に位置づけるため関係機関と協議・調整を進めており、引き続き国や角田市などと緊密に連携しながら早期着手に向け鋭意取り組んでまいります。

次に、主要地方道丸森柴田線の道路整備についての御質問にお答えいたします。

主要地方道丸森柴田線は、丸森町の国道百十三号から角田市東部を縦断し柴田町の国道四号に至る県南地域の広域連携を担う重要な幹線道路です。このうち、角田市の島

田地区については、一部幅員が狭い区間があることから、道路利用者の安全性を確保するため、これまで、県道角田大内線との交差点改良のほか、視線誘導標や路面標示の安全対策を実施してきたところです。また、令和元年東日本台風において冠水した、丸森町境から県道角田大内線交差点までの約八百メートル区間については、これまで、角田市と道路整備の在り方について意見交換を重ね、昨年度から具体的なルートや構造などを検討する概略設計に着手しており、今年度は軟弱地盤の調査や対策工等の検討を行う予定としております。県といたしましては、早期整備に向けて引き続き調査設計を進めるとともに角田市と緊密に連携しながら鋭意取り組んでまいります。

次に、主要地方道白石丸森線の道路整備についての御質問にお答えいたします。

主要地方道白石丸森線は、白石市の国道四号と丸森町の国道三百四十九号を東西に結び、県南地域の経済活動や観光振興を支える重要な幹線道路です。このため県では、線形不良区間が連続し道路幅員が狭隘となっている丸森町大張大蔵地区の約二・二キロメートル区間の改良を重点的に進め今月工事が全て完了したところです。御指摘のありました角田市小田地区の約二・七キロメートル区間については、これまでに詳細設計が完了し、丸森町側から用地測量を実施しており今年度は用地買収に着手することとしております。県といたしましては、引き続き角田市や地域の方々の御協力をいただきながら、早期の工事着手に向けて鋭意取り組んでまいります。

私からは、以上でございます。

○副議長（村上久仁君） 教育委員会教育長小野寺邦貢君。

〔教育委員会教育長 小野寺邦貢君登壇〕

○教育委員会教育長（小野寺邦貢君） 大綱五点目、若年層の献血推進についての御質問にお答えいたします。

高校生の段階において、献血の必要性を正しく理解し他者を思いやる共助の心を養うことは、次代の社会を担う心豊かな人材を育成する上で大変重要であると認識しております。県教育委員会では、令和六年度から県赤十字血液センター及び保健福祉部と連携し、県立高校を対象に献血バスでの献血や見学会、セミナーのいずれかを実施しており、昨年度は約八七％の県立高校が参加いたしました。今年度は約九二％の県立高校が参加する予定であり、生徒からも好評を得ていることから今後も継続してまいりたいと

考えております。

以上でございます。

○副議長（村上久仁君） 三十一番八島利美君。

○三十一番（八島利美君） 御答弁ありがとうございます。それでは、また質問をさせていただきます。

まずは、防災・減災、国土強靱化の推進についてのうち、流域治水の関係でございます。

今検討していただいているという答弁の中で、今年の一月に国のほうから尾袋川の新しい方法について提案があったということなのですが、これが今のところ国と角田市も含めて協議をしていたかと思うのですけれども、これもうちよつと具体的にどのような内容なのかを御説明いただいてよろしいでしょうか。

○副議長（村上久仁君） 土木部長齋藤和城君。

○土木部長（齋藤和城君） 今年一月に国のほうから提案があった案でございますけれども、尾袋川につきまして今の江尻排水機場から下流部から直接阿武隈川に抜くと、今の阿武隈川に合流して、尾袋川のところに水門をつけて逆流を防止します。更に、阿武隈川に抜いたときに堤防に水門をつけて、阿武隈川の水が入ってこないようにするような計画でございます。

○副議長（村上久仁君） 三十一番八島利美君。

○三十一番（八島利美君） そうしますと、そのことをすれば先ほどの答弁のように、道路のかさ上げをしなくても逆流することはなくなるということでは今進めているということでしょうか。

○副議長（村上久仁君） 土木部長齋藤和城君。

○土木部長（齋藤和城君） この案につきましては、基本的には道路のかさ上げと同等の治水機能を有するというところでございます。ただ一部、新しく作る尾袋川の堤防を山側に接続するわけで今の三百四十九号のところではぶつかるのですけれども、その堤防の高さが道路のほうが低いですからその三百四十九号の部分は少しかさ上げをしなければいけないかなと思っております。

○副議長（村上久仁君） 三十一番八島利美君。

○三十一番（八島利美君） 令和元年の東日本台風の被害のときに、あそこの三百四十九号の道路が低いためにオーバーフローしてしまいまして住宅地に水が入ってしまったということ、今の三百四十九号をかさ上げすることによってそれを防止するとの地元の要望があつたのですけれども、かさ上げと合わせて逆流防止のための手当てをしていただけるということであれば、そういった令和元年のときの災害の影響が出てくることはないのかなと安心したわけなのですけれども、そういったことを、今、国のほうと協議をして、詰めているということだと思ふのですがこの協議というのは大体いつ頃までに方針が決定するかと考えてらっしゃいますか。お願いします。

○副議長（村上久仁君） 土木部長齋藤和城君。

○土木部長（齋藤和城君） 今言つた新たに国から示された案について、いろいろなシミュレーションをしながらある程度の対策の案としてはまとめてございます。計画の素案をつくっている段階ですので、それを今、国のほうと協議を進めているという状況でございます。その協議が完了次第パブリックコメントであつたり、地元説明会を開催しながら成案をまとめて最終的に公表したいと思つているところでございます。

○副議長（村上久仁君） 三十一番八島利美君。

○三十一番（八島利美君） できるだけ早くまとめていただきまして事業に着手していただけるようお願いをしたいと思います。

それから今度は県南地区の道路整備促進についてですが、おかげさまで丸森柴田線の概略設計が今進んでいるということ、今年度は地盤調査をしてという段取りになつているということです、この調査がいつぐらいまでに終わつて実際の工事がいつから始められるかということもちょっとお聞きしたいのですがいかがでしょうか。

○副議長（村上久仁君） 土木部長齋藤和城君。

○土木部長（齋藤和城君） 昨年度から概略設計、これはルートであつたり構造を検討する調査でございます。あそこの地区におきましては、やはり今道路が波打っていると、かなり軟弱がひどい地域でございますので今回しっかりとボーリング地質調査をしながら、こういった対策が必要か今年度まとめていきたいと思つております。その後、ある程度もう少し精度を上げた道路の予備設計を行ひまして、事業化をして、詳細設計、用地の協力という形で進めていきたいと思つていますので、まず今年度しっかりと軟弱地

盤対策をまとめて、来年度予備設計の着手をしていきたいと思っています。

○副議長（村上久仁君） 三十一番八島利美君。

○三十一番（八島利美君） 今お話があつたとおり軟弱地盤なものですから、かなり道路のほう下がつていまして、ちよつとした雨が降りますと浸水をして通行止めになつてしまうことも今起きているものですから、それを早めに解消していただくためにも調査設計のほうを進めていただいて工事を早めに進めていただきたいと思います。

あともう一点なのですが、白石丸森線、おかげさまで丸森の大張地区は完了いたしました。本当に地域の皆さん喜んでおられました。ありがとうございました。引き続いて、今度は角田の小田地区の工事のほう進めていただきたいということで、一部用地測量が終わりまして今年度から用地買収にかかるというふうな予定だということなのですが、これもいつぐらいまでに用地買収を済ませて工事着手できるかということが分かればお願いしたいと思います。

○副議長（村上久仁君） 土木部長齋藤和城君。

○土木部長（齋藤和城君） 角田側につきましては約延長で二・七キロメートルございます。結構延長が長い区間でそこを一工区二工区ということで分けて、今、丸森側の一・三キロメートル区間を重点的に用地の御協力をいただくための交渉を進めているということですので、工事を進めるに当たっては用地の御協力が必要でしたっけと。その地元の方々の御協力をいただけたところから、ある程度まとまったら工事に着手していきたいと思っております。

○副議長（村上久仁君） 三十一番八島利美君。

○三十一番（八島利美君） 毎回毎回この道路二本についてはしつこく質問させていたでいていまして、部長も困っていると思うのですけれども、間違いなく進んでいるということは確認できましたので、どうぞ今後ともよろしくお願いをしたいと思います。

最後にポケモン天文台についてちよつとお話をさせていただきます。

ポケモン天文台、本当にいい事業だと思いますので、これを活用して宮城県をPRしていただきたいと思うのですが、どうかもう一声、これ頑張つてやっていきたいということがあるばお願いしたいのですが。

○副議長（村上久仁君） 知事村井嘉浩君。

○知事（村井嘉浩君） ポケモンの人気っていうのは、もう日本に限らず世界的な人気でございまして、私の孫なんかもポケモンの名前が全部言えるぐらいすごい大好きです。今度私自身も、孫を連れて行こうかなと思っておりまして。私ですらそうですので、かなりの方が訪れていただけるのではないかなと期待しております。ただ、まだ前売り券の売れ行きがあまり芳しくないのです。多分皆さん御存じないのだと思うので、それこそいろんなツールを使ってPRをしていかなければいけないなと思っていて、これ幹部会でも、いろいろ機会を通じてPRしようとお願ひしているところでもあります。ぜひ成功させたいなというふうに思っておりますので、御支援よろしくお願ひ申し上げます。

○副議長（村上久仁君） 三十一番八島利美君。

○三十一番（八島利美君） 知事、大歓迎でございますのでどうぞ角田市においでください。どうもありがとうございます。

終わります。